

令和元年度 第1回八千代市観光振興懇談会議事録

- 1 会議名 令和元年度第1回八千代市観光振興懇談会
- 2 日時 令和元年12月20日（金）午後2時～午後3時40分
- 3 場所 八千代市役所旧館4階 第2委員会室
- 4 議題 (1) 観光推進室の取組について
(2) (仮称)八千代市観光振興計画について
(3) その他
- 5 出席者 **【委員】**
八千代商工会議所まち興し委員会委員長 太田 博
八千代商工会議所事務局長 鈴木 智
八千代市農業協同組合青年部部長 飯山 知裕
八千代市農業協同組合経済部部長 斉藤 等
株式会社JTB千葉西支店長 瀧上 富雄
一般社団法人八千代市観光賑わいセンター理事長 杉山 智基
京成バラ園株式会社ガーデン部部長 丸山 和彦
秀明大学観光ビジネス学部長・教授 市川 友英
秀明大学観光ビジネス学部教授 木村 義彦
市民委員 速水 清
市民委員 浜野 俊輔

【事務局】
経済環境部長 豊田 和男
経済環境部次長 糟谷 龍郎
商工観光課長 渡邊 久貢
商工観光課主査 佐藤 裕次
観光推進室長 神代 信宏
観光推進室主査 齋藤 岳洋
観光推進室主査補 三木 朋子
- 6 公開又は非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人（定員5人）

開 会

事務局（神代室長）

定刻となりましたので、始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本日、進行を務めさせていただきます観光推進室長の神代でございます。よろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、服部市長より委員の皆様へ委嘱状の交付をさせていただきます。委嘱状の交付につきましては、会議開催の関係で遅れましたことをお詫び申し上げます。

それではこれより、各委員のお名前を読み上げさせていただきますので、呼ばれましたらその場でご起立ください。

ー以下、委嘱状交付ー

事務局（神代室長）

以上をもちまして、委嘱状の交付を終了いたします。

それではこれより、令和元年度第1回八千代市観光振興懇談会を開会いたします。

本日の会議は「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」に基づき、公開の会議となっております。会議録作成のため、会議の内容を録音させていただきますので、ご了承ください。そのため、個人情報に関わる事項や、特定の企業・団体に利益・不利益となる発言につきましては、ご留意いただきますようお願いいたします。

また、実証実験としてAIにより議事録を作成するため、マイクを使用してのご発言をお願いします。マイクのスイッチを押し、座ったままでご発言ください。

本日の会議の出席委員は11名であり、委員全員の出席をいただいております。

それでは会議開催に当たりまして、はじめに服部市長からご挨拶を申し上げます。

服部市長

本日は、お忙しい中、八千代市観光振興懇談会にご出席いただきありがとうございます。

近年、観光が国の重要な施策として位置付けられ、本市でも4月から取り組みを進めております。シティプロモーション課を置きまして、市の観光につながる情報を発信する仕事をさせていただきます。

本市では、新川千本桜植栽図マップの作成や、市ホームページでの新川千本桜の開花状況のお知らせを平成28年度から始めており、今年1月から4月までの間で、河津桜の紹介ページのアクセス数は約3万5千件にのぼります。

今後も観光資源の発掘や計画等を市の内外に発信していきたいと思っておりますので、皆様の忌憚のないご意見をいただき、本市の観光振興に努めて参りたいと思っておりますので、何とぞよろしくご意見申し上げましてご挨拶にかえさせていただきます。

事務局（神代室長）

ありがとうございます。

次に、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。本来であれば、委員の皆様から自己紹介を頂くところでございますが、議事進行の都合上、事務局からの紹介とさせていただきます。なお、紹介に当たりましては委員名簿の記載順に紹介させていただきます。

はじめに、八千代市観光振興懇談会設置要領第3条に規定されております商工業団体に所属する委員といたしまして、八千代商工会議所まち興し委員会委員長の太田博様です。

太田委員

よろしくご意見いたします。

事務局（神代室長）

八千代商工会議所事務局長の鈴木智様です。

鈴木委員

よろしくご意見いたします。

事務局（神代室長）

続きまして、農業団体に所属する委員といたしまして、八千代市農業協同組合青年部部長の飯山知裕様です。

飯山委員

よろしくご意見いたします。

事務局（神代室長）

八千代市農業協同組合経済部部長の斉藤等様です。

齊藤委員

よろしくお願ひいたします。

事務局（神代室長）

続きまして、観光関係事業者の委員といたしまして、株式会社JTB千葉西支店支店長の瀧上富雄様です。

瀧上委員

よろしくお願ひいたします。

事務局（神代室長）

一般社団法人八千代市観光賑わいセンター理事長の杉山智基様です。

杉山委員

よろしくお願ひいたします。

事務局（神代室長）

京成バラ園芸株式会社ガーデン部部長の丸山和彦様です。

丸山委員

よろしくお願ひいたします。

事務局（神代室長）

続きまして、学識経験を有する委員といたしまして、秀明大学観光ビジネス学部学部長・教授の市川友英様です。

市川委員

よろしくお願ひいたします。

事務局（神代室長）

秀明大学観光ビジネス学部教授の木村義彦様です。

木村委員

よろしくお願ひいたします。

事務局（神代室長）

続きまして、市民委員といたしまして、ご応募いただいた方が2名おります。速水清様です。

速水委員

よろしく願いいたします。

事務局（神代室長）

浜野俊輔様です。

浜野委員

よろしく願いいたします。

事務局（神代室長）

以上の11名でございます。よろしく願いいたします。ここで、市長は公務のため退席させていただきます。

服部市長

それでは、後はよろしく願いいたします。

—市長退席—

事務局（神代室長）

次に事務局の紹介をいたします。先程委嘱状の交付で立ち合いました経済環境部部長の豊田です。

事務局（豊田部長）

豊田です。どうぞよろしく願いいたします。

事務局（神代室長）

経済環境部次長の糟谷です。

事務局（糟谷次長）

糟谷です。どうぞよろしく願いいたします。

事務局（神代室長）

商工観光課長の渡邊です。

事務局（渡邊課長）

渡邊です。よろしくお願ひいたします。

事務局（神代室長）

商工観光課の佐藤です。

事務局（佐藤）

佐藤です。よろしくお願ひいたします。

事務局（神代室長）

商工観光課観光推進室の齋藤です。

事務局（齋藤）

齋藤です。よろしくお願ひいたします。

事務局（神代室長）

同じく，三木です。

事務局（三木）

三木です。よろしくお願ひいたします。

事務局（神代室長）

先程もご挨拶いたしました，観光推進室長の神代でございます。よろしくお願ひいたします。

本日の配布資料の確認をさせていただきます。まず，次第，席次表，委員名簿，八千代市観光振興懇談会設置要領，クリップ留めの会議資料と参考資料となっております。配布漏れ等ございませんでしょうか。

続きまして，会長及び副会長の選出についてでございますが，本懇談会設置要領第5条の規定におきまして，会長及び副会長は，委員の互選により定める，と規定しております。また，同要領第6条の規定では，懇談会は会長が招集し，会長が会議の議長を務めると定めておりますことから，委員の皆様のご意見を頂戴したいと思ひます。皆様いかがでしょうか。

鈴木委員

はい。

事務局（神代室長）

鈴木委員，お願いいたします。

鈴木委員

私の方から，引き続き，地元の大学の教授である市川委員を会長に，副会長には，商工会議所まち興し委員長の太田委員を推薦したいと思います。

事務局（神代室長）

はい。ありがとうございます。

ただ今，市川委員を会長に，太田委員を副会長にというご提案がありましたが，皆様いかがでしょうか。

全委員

異議なし。

事務局（神代室長）

ありがとうございます。異議なしということで，市川委員に会長を，太田委員に副会長をお願いいたします。

それでは，市川会長には，議長席に席を移動していただきます。お席移動後に，市川会長，続きまして太田副会長に，ご挨拶をお願いいたします。

—市川会長，議長席へ移動—

議長（市川委員）

会長にご指名いただきました秀明大学の市川でございます。微力ながらこの任を賜りたいと思います。皆様のご協力をおもちまして，スムーズな会議進行にご協力いただければと思いますので，どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（神代室長）

ありがとうございます。太田副会長，ご挨拶をお願いいたします。

太田委員

太田でございます。市川会長の元，一生懸命支えていきたいと思っておりますので，

よろしくお願ひいたします。

事務局（神代室長）

よろしくお願ひいたします。これからの議事進行につきましては、会長にお願ひしたいと思います。

議長（市川委員）

はい。それでは早速でございますけれども、議題に入りたいと思います。着座にて恐れ入りますが、進行を進めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

議題の(1)観光推進室の取り組みについて、事務局より説明をお願ひいたします。

事務局（齋藤）

事務局の齋藤と申します。議題(1)について、着座にて説明をさせていただきます。昨年までと重複する内容もありますが、新委員の方もいらっしゃいますので、改めて説明をさせていただきます。

まず、観光推進室の取り組みにつきましては、市の総合計画に位置づけられた三大祭りへの支援や観光資源の発掘、活用、地域間連携の推進という項目に基づき、祭等のイベントの後援、観光情報の発信を中心に進めております。観光情報につきましては様々な媒体を活用し、幅広く発信することが重要であると考えており、市ホームページや広報やちよ、インターネット等により周知を行っております。

インターネットを活用し、スマートフォンやタブレットで簡単に情報が得られるツールとして、昨年の1月から運用開始した八千代市観光ガイドアプリココシルやちよについて、説明をさせていただきます。スクリーンをご覧ください。この観光ガイドアプリは、市内の観光スポットやイベント情報、グルメ情報などの街歩きに役立つ、約290のスポット情報をカテゴリーごとに検索することができるようになっております。こちらはWebサイトのトップ画面で、主なカテゴリーが表示されます。アプリで利用した場合と同様な見た目となるように、設計されています。

例えば、「食べる」の中のカフェです。こちらのお店をクリックすると、お店の情報が掲載されております。この右側の最新情報は、施設からのお知らせです。このように、お店の方がこのページのオーナー申請をすることで、ご自身の店の情報発信をできるようになっております。また、一般の方からの口コミもできるようになっており、このアプリをスマートフォンで使用する場合は、街歩き用に

GPSによるお店までの道案内機能もあります。

トップ画面に戻りまして、こちらはやっちからのお知らせで、市からのイベントのお知らせになります。資料1 ココシルやちよ利用者数にもまとめてありますが、昨年1月にリリースしてから、85件の情報発信を行っております。

こちらは、店舗施設最新情報です。こちらは、やちよ京成バラ園のイベント情報になります。こちらは、秀明大学ウォーターポロアリーナからの情報になります。

ココシルやちよの利用者数の推移に関して、資料1のココシルやちよ利用者数をご覧ください。11月末までで、延べアクセス数が3万8,225件、実アクセス数が2万6,745件、新規ユーザーが2万3,345件となっております。年度の途中ではありますが、昨年度と今年度を比較して、どの月もアクセス数が伸びております。例えば、延べアクセスは昨年4月からの8ヶ月間と、今年と同じ時期を比較し、約30%程度増加しております。表の下では、スポットや市からのお知らせ配信の数をまとめてあります。

こういった内容を見られているのかについては、資料2と資料3のココシルやちよのページ別訪問数になります。資料2は10月、資料3は11月のトップ25になります。11月の統計を見ると、4位のクリスマススペースボールや8位の東葉高速鉄道車両基地の車両基地まつり、11位の黒沢池のたたら祭り、15位の焼き芋祭り、16位のJA八千代市農産物直売所の秋の収穫祭の情報など、イベント情報の発信に関心が高い傾向があることがわかりました。また、5位の源右衛門鍋の特集ページにつきましては、この時期に出店イベントがあったことも要因だとは思いますが、毎月上位にランクされています。

では、どのような方が見ているのかについては、資料4と資料5のココシルやちよの地域別訪問数になります。資料4は10月の、資料5は11月の統計になります。観光推進室では、まず市内の方に八千代市の観光を知ってもらおうという視点を持って情報発信を行っておりますが、10月の統計では、市内からのアクセスが全体の約2割で、一方、市外からのアクセスが約8割を占めており、市外からも注目されていることが分かってきましたので、参考にしていきたいと思っております。また、市内の方にもっとココシルやちよを知ってもらう方策を検討していく必要があると考えます。以上がココシルやちよの説明となります。

次に、印旛沼流域かわまち作り計画において、観光振興に関して取り組んでいくことを報告させていただきます。

千葉県と公園緑地課が行っている流域の総合的な利活用を推進するかわまちづくり計画において、令和2年度には阿宗橋周辺拠点の施設整備工事を行う予定となっております。このことを踏まえ、今年も7月に佐倉市と地域間連携について協議を行いました。かわまちづくり計画において、船着き場が整備されてき

た際には、地域間連携を踏まえ、佐倉市観光協会で行っている船を桜の開花時期に合わせるなど、八千代市でも運航出来ればと考えておりますので、今後も実施に向けて、佐倉市と協議を進めていく予定となっております。

また、観光推進室の取り組みではありませんが、八千代市内や近隣自治体の民間事業者や地域住民などが中心となり、新川ウォーターフロント共同事業体が結成され、本年度から印旛沼流域の自治体職員や関係する民間事業者と連携し、新川水辺空間のエリアビジョンの策定等を実施し、人材発掘および情報発信を行う新川ウォーターフロントプロジェクトが国土交通省の補助を受けて始まっております。こちらにつきましても、かわまち作り計画の施策の推進にあたり、関連する可能性がありますことから、今後連携を図っていきたいと考えております。

次に、三木の方から説明をさせていただきます。

事務局（三木）

私からは、観光推進室で作成した動画やパンフレット、ポスター、観光情報の発信について説明させていただきます。

まず、会議前にスクリーンで流しておりました動画についてご説明します。昨年の4月に市民の安全と地域の発展振興に寄与することを目的とし、県内初となる無人航空機ドローンの活用に関する協定を、八千代警察署と株式会社ディーライフとの3社で締結しました。協定に基づき、昨年度はソメイヨシノを中心とした新川千本桜、やちよ京成バラ園、農業交流センター近くのそば畑に咲くそばの花、八千代ふるさと親子まつりの4本の動画を作成しました。スクリーンに映しております YouTube の八千代市観光推進室の公式チャンネルに4本の動画をアップし、ドローンで撮影した八千代市の見どころをいつでもご覧いただけるようになっております。今年度については、2月下旬から3月上旬に咲く河津桜の動画を作成する予定となっております。

次に、配布資料の八千代ふるさと親子マップをご覧ください。こちらは市制施行50周年を記念し、株式会社ゼンリンと市が協定を締結し、市内の事業者などからの広告協賛により制作したものです。先程齋藤が説明させていただきました観光アプリココシルやちよや YouTube の動画等のWeb媒体の他に、スマートフォンやインターネットに馴染みがない方にも手に取っていただけるように、紙媒体の観光情報誌として発行したものです。スクリーンの主な配布場所をご覧ください。平成30年2月に2万部を作成し、市内公共施設の他に、スクリーンに映しておりますように、県内の道の駅や木更津の海ほたる、千葉県主催の商談会等に配布しており、好評をいただいております。現在、株式会社ゼンリンと改訂版の制作を進めており、今年度の3月に発行できるように準備をしております。

ます。改訂版の製作に向けてのご意見もいただきたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

また、八千代ふるさと親子マップの他にも紙媒体のものとして、観光ポスターを2種類作成しております。お手元のA4サイズの新川とバラの両面チラシをご覧ください。住んでいてもなかなか見ることのできない八千代市の素敵な一瞬を多くの方に観ていただけたらという思いから、昨年度2枚のポスターを作成しました。それぞれのポスターに使用した写真は、主に市制施行50周年に行われた八千代景観フォトコンテストの入選作品から選びました。こちらのポスターは市内公共施設や商業施設、近隣の道の駅、県内の観光施設等に順次配布しております。

最後に、観光情報の発信について説明させていただきます。観光推進室では、観光アプリココシルやちよや市ホームページ、千葉県公式観光物産サイトである「まるごとe!ちば」からの情報発信の他に、有限会社千葉マガジン発行の「ぐるっと千葉」、東葉高速鉄道株式会社発行の「プチトリ」など、各種情報誌への観光情報の提供を行っております。

1年を通じ問い合わせ数が多いものが、八千代ふるさと親子まつり実行委員会との共催事業であります八千代ふるさと親子祭についてと、お手元の資料、新川千本桜植栽図にあります早咲きの桜、河津桜についてです。毎年2月下旬から3月上旬に見頃を迎える河津桜は、道の駅やちよ近くの新川沿い4.6キロにわたる約700本の桜並木で、県内でも有数のお花見スポットとなっており、市内外からのお問い合わせを多く頂いております。

観光推進室では、平成28年度から新川千本桜の会との協働により、ココシルやちよと市ホームページで、桜の開花情報を随時発信しております。スクリーンに映しておりますアクセス数をご覧ください。こちらは、1月から4月までの市ホームページでの開花状況の延べアクセス数です。ご覧のとおり、ソメイヨシノや陽光に比べかなり多い件数となっており、また、平成30年春と比較しても約6千件増え、平成31年春は、3万4,950件のアクセス数となっております。今年度についても、新川千本桜の会との協働により、来月下旬から開花情報を発信していきたいと思っております。以上になります。

議長（市川委員）

ありがとうございます。議題(1)について説明がありましたけれども、ご意見を賜りたいと思います。様々な説明がありましたので、少し区切ってお話しさせていただきます。

まずは、一番初めに説明がありましたココシルやちよについて、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

浜野委員

よろしいでしょうか。2年半前に、私は地元の自治会の会長をやることになりました。そのとき初めて知ったんですね。これを市民の方にはどのように配布しているのでしょうか。

事務局（神代室長）

市民の方へ、そのパンフレットの配布状況ということでよろしいでしょうか。

浜野委員

そうですね。まず、これがどの程度市民に知られているかということです。

事務局（神代室長）

数字の統計の取り方といたしまして、このアプリへのアクセスというのを基準としているものでして、市民がというと先程お話しした通り、アクセス数の2割となっております。全体3万何千件あるうちの2割ぐらいが市民からのアクセス数という見方になっております。

浜野委員

もろもろあると思うのですよね。アピールの手段だと思います。

まず、市民がどの程度こういうことを知っているのかっていうことを、どの程度所管部署の方で掴んでおられるのか。あまり市民が観光資源そのものを知らない。あるいはこういうものの媒体を見て、こういうものがあるっていうことも知らないのではないかと思いましたので、その辺の質問をいたしました。

事務局（神代室長）

私共もできる限りの宣伝をしているのは、市ホームページ、広報やちよ、あとはふるさと親子祭等の配布物に掲載するとか、そういったアナログ的な宣伝は比較的やっておりますが、市民の方がどのくらい知っているかということについては、数字を持ち合わせておりません。あくまでもアクセスの中でこういった方達が見て頂いているのだな、というところに留まっております。

議長（市川委員）

他にご意見等ございますか。

速水委員

私もすみません。

議長（市川委員）

はい。どうぞ。

速水委員

一市民なのですけれども、浜野さんと同じような印象で、私自身はスマホを持っていないですから、インターネットを見ることができないのですけれども。こういうのがあるよというのは、ちょっと前から知っていたのですが、見たことはなかったです。市民委員になって、初めて1回だけ見ましたが。まず、市民の皆さんに認知されているという感じはないのかなという気がいたしました。

議長（市川委員）

はい。ありがとうございました。他に意見ございますか。瀧上委員いかがでしょうか。

瀧上委員

私は、非常にアクセス数が多くて、素晴らしい取り組みだと思っております。実際に、私の携帯の方で「八千代 観光」と入力をさせていただきます。そこにココシルが一番初めに上がってくるような形にもってこれると、飛躍的にアクセス数が増えていくのではと思います。そうすると、利便性にも繋がっていくのではと感じております。

議長（市川委員）

はい。ありがとうございました。他にございますか。では、私の方から少しよろしいでしょうか。

まず、このココシルというプログラムは他の街でもガイドアプリを作っていると思うので、他の街と比べて、このココシルやちよの利用数がどの程度なのか。他の20万人ぐらいの都市型観光の街において、例えば、このアクセス数が色々ありますけれども、これが他と比べてどうなのか。それを分析した上で、要はゴールをどこに定めるのか。何十万ビューであれば、一定程度の目標を達成したことになるのか。そういう具体的な目標を立てた方がよろしいのではないかなと思っています。多分作られた業者さんに聞くと、そういった一定程度のデータを取れると思いますので、それを参考にしながら、例えば5年後にココシルやちよを30万ビューにしていくとか、そういった形のゴールを定めることを考えてはどうかと思うことが一点。

それとちょっと気になっているのが、この散策モデルコースです。本当にみんな歩いているのだろうかというところですね。こういったものは、やはり作って

作りっぱなしというパターンが一番まずいので。もし歩いていなければ、なぜそうなっているのか。先程委員の方からあったように、認知度が低いのか、それともこのコースが悪いのか。こういった散策モデルコースの利用例の情報を、少し探ってみてはどうかなと思いました。

他にございますか。それでは、二つ目に説明がありました八千代ふるさと親子マップについていかがでしょうか。

浜野委員

はい。これも2年半くらい前に出されたように思いますが、違いますでしょうか。

事務局（神代室長）

そちらは平成30年2月に作成しております。アプリも平成30年1月のリリースなので、同時期に出ております。

浜野委員

自治会員の全家庭にほしいと思いました。当時2万部作られたと聞いておりまして、カウンターにあるものは持って行っていいですよということで、時々来てはいただいています。我々の地区は、全家庭に置かせていただくようにしました。それから、転入者にもこれを渡しています。ほとんどの方が持っておられなかったもので、地元民にとっては市の観光が非常にわかりやすいと思っております。

議長（市川委員）

ありがとうございました。

先程事務局の方から、この改訂版を作る上でのご意見等がもしあればということもありましたので、その辺も踏まえて委員の方々からご意見を頂戴できればと思います。

丸山委員どうでしょうか。京成バラ園さんも載っているようですが、いかがでしょうか。

丸山委員

はい。ちょっと写真がいまいちかなって感じました。すみません。

議長（市川委員）

率直な意見で、全然構いません。

丸山委員

バラの写真にも力を入れており、この秋に関しても実際にプロのカメラマンが秋バラを作成させていただいたというような状況です。春のバラが一番いいと思うのですけれども。この写真のデータは弊社からお渡ししたのかとは思いますが、もし改訂版が出るのであれば、またお声をかけていただければと思います。よろしくをお願いします。

議長（市川委員）

はい。ありがとうございます。木村委員いかがでしょうか。

木村委員

私は八千代という所を今の職場に来るようになりまして、初めて知りました。他所から見て感じた点でいうと、まず、このふるさと親子マップの親子にこだわる意味ってどこからきているのかなと思いました。親子じゃなくても別にいいのではと。命名的なものですけれども。

それから八千代市の概要ということで、私が外から見て、八千代という名前は昔から知っていましたがけれども、周りにどんな市に囲まれているとか位置的な感覚がわからなかったんですね。今でもよくわかってないですけども。特化して八千代の紹介をするのももちろん素晴らしいんですけども、県内の位置的なもの、どういう所と隣あっているのかというような相乗効果的なその位置の把握という部分で、もうちょっと書いてあるといいと思います。素晴らしい地図があるのでありますが、全体的な千葉県の中の八千代はどこってという説明をすることはちょっと難しいなって思ったんですね。そういった認知をしてもらうための工夫というか、こういうところに載せると外から見た点でちょっとイメージが変わるのではないかなという感じを受けました。

議長（市川委員）

ありがとうございます。事務局の方、親子マップの命名理由は、何か特別なものはございますか。

事務局（神代室長）

この中のイベント情報にもありますが、八千代市には市内最大の祭りである八千代ふるさと親子祭というのがございます。これは、市民の皆さんや商工業団体の皆さん等市民全員で作上げる祭りということで、約20万人の来場者を集める市内一の祭りです。そういった市内全体を包括するようなイメージ、みんなで作上げるものですか。そういったところから、名前を一部頂戴するよう

な形で、八千代ふるさと親子マップにしております。

議長（市川委員）

ご理解いただいたでしょうか。

木村委員

はい。

議長（市川委員）

その他にご意見等ございますか。はい、浜野委員。

浜野委員

先程2万部と申し上げたんですけれど、現在の在庫は。

事務局（神代室長）

現在の在庫は、大体二千から三千の間ぐらいです。

浜野委員

そうですか。私は市民用かなと思ったんですよ。市外、県外、海外と色々宣伝の仕方があると思いますけれど、これはどこに焦点を置いたかということ、多分市民だろうと思って。全世帯に渡るようにして、全世帯がこれを見て、市内の観光財産等を知るということが必要なのではないかと思うんですよね。半分以上、6割から7割の世帯はこれがないと思います。見る機会もないと思います。まずその辺を意識して、今後費用の点もあると思いますが、市内の全世帯に知らしめるということ。先程のココシルやちよもそうなのですが、それよりもこちらの方がインパクトがあっていると思います。

議長（市川委員）

はい。ありがとうございました。

木村委員

あと、一点よろしいでしょうか。

議長（市川委員）

はい。木村委員、どうぞ。

木村委員

勉強になることがたくさん書いてありますけれども。例えば、私も行ったことがない所に行ってみようかなって思ったときに、アクセスについて全く書いていなくて、実際にこの公園に行くにはどう行くのかなど。地図見て勝手に行けっということなのかもしれないですが。コミュニティバスがあるか存じ上げないですけれども、例えば市内の交通機関だとか、そういったものが併せて載っていると、より具体的に行きやすいという感じを受けました。どこにあるのかなって、分からない感じを受けましたね。

議長（市川委員）

ありがとうございました。他になければ、少しまとめたと思います。

浜野委員からは、部数の問題ですね。これは予算的な問題も当然あると思いますので、何とも言えませんけれども。例えば、その街のるるぶを作るとかマップを作るという時に、世帯数分を用意しようという話があるのですけれども。当然のことながらそれが一番理想的とは思いますが、予算との兼ね合いとバランスを見てという話にならざるを得ないのではないかと思います。少なくとも、今回よりはちょっと部数を増やしていただいた方がよろしいかなと思います。

また、木村委員の方から出ました俯瞰図やアクセスの件も、今Googleマップもありますけれど、Googleマップを見てでは少し苦しいかなという感じがありますので、その辺ももしできるようでしたら改定をお願いしたいと思います。

丸山委員の方からは、写真のリニューアルの話が出ましたけれども、私は、例えばこの表紙を見た時に八千代市はどの観光、どの場所を売りたいのかということをはっきりした方がいいと思います。少なくとも、京成バラ園と河津桜、道の駅、やはりこの辺が中心になってくると思いますので、それをインパクトを持って出した方が、観光マップとしてはわかりやすいのではないかなと、私はそういった個人的な認識を持ちましたので参考にさせていただければと思います。

その他に、皆様の方からどうしてもということがあれば、承りたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

最後に、その他ですね。八千代新川千本桜の植栽図やポスター、ドローンの件とか、色々なご説明がありましたけれども、その他について皆様のからご意見がございましたら承りたいと思います。

速水委員

はい。

議長（市川委員）

はい、どうぞ。

速水委員

新川千本桜は見事で見ごたえがあるのですけれども、この時期、この周辺は佐倉市から、印西市から、どこでも桜の名所がありまして。同じような時期に、各市町村で自分の所の桜自慢をされているんですね。期間的にもそんなに長い期間でもないですし、他の地域の方に自慢することも必要は必要ですけれども、たくさんの方が来ることを期待できないのでは。時期の問題からして、そんなに力を入れるのはいかがかなと思うんです。

そういう意味では、たまたま京成バラ園さんがあるように、バラは時期的にもいろんな花が咲いたりしますし、そっちの方を一生懸命宣伝した方がお客さんは集まるのではという気がします。

それから、桜以外の季節でも人を集められるような。例えば、桜と桜の間に柳が植わっているとか。今思いつきですが、そのような新たな取り組みも並行して、他の地域との差別化を図ることを考えるのも一つの案かなと思いました。

議長（市川委員）

ありがとうございます。その他にご意見等ございますか。はい、浜野委員。

浜野委員

今の速水さんのご意見も全くそのとおりで。昨日、たまたま予定していたんですが、緑化公社の2人を地元の我々が呼び、バラ園の北村社長にお声を掛けました。バラ園から我々の住んでいる緑が丘の駅まで、1.1キロの遊歩道があります。雨が降っていたんですけれども、午前中一時間ぐらい往復しました。バラが1本もないことを確認しました。市の花がバラで、随分前から100万本のバラ構想があったり消えたりしていて。

私も都心に長く通ってしまして、八千代ってバラがある所だろう、京成バラ園がある所だっというのは、かなりの人が知っています。その他というと、出てこない。いろんな要素があると思うんですが、我々としては、外から見て住んでみたい街にしたい。そして、今住んでいる人から見たら、住み続けたい街にしたいと思っているんです。他から見て魅力ある街というのは、何かインパクトがないといけない。そうすると、さっきから言われている河津桜か、現在のバラ。

我々は、駅の北口に170本バラを植えました。5月にローズフェスタというのを16年前からやっけていまして、その北口のバラが枯れましたので、再生ということでボランティアを再結成して、今50数名ですね。毎月30名ぐらい出て

やりました。1年半後には北口を300本にしたい。3年で駅前を日本一のバラの駅にしようというのが夢です。そこをスタートとして、北口からバラ園に行く方の2割から3割は、1.1キロを歩いて行かれる。バラ園に行くと1万3千ものバラが立派に咲いている。この間の市の道路にバラが1本もない。ここに、何とかしてバラを。お客さんを迎え北口のバラを見て、歩きながらバラ園に行ってバラを見て。往復の時に、例えば途中にアーチがあったり、フェンスにバラがあったりということを地元の人と確認しながら、市の方に働きかけ、あるいはバラ園や東葉高速にもお話しして、一緒に取り組んでいこうとしております。

併せて、村上駅と八千代中央駅にもバラがございます。これも十数年前からバラを植栽し、土木管理課の所有地でボランティアがやっていたんですけど。

議長（市川委員）

浜野委員、少し手短にお願いいたします。

浜野委員

我々としては、八千代台を含めた各駅がシーズンにはバラで皆さんを迎えて、バラを見ながら帰っていただく街にしたい。あるいはバラ園に向かって歩く道もそういうふうにしてみたい。

要するに点から線へ線から面へということで、街そのものが何かインパクトにして、資源を集中して観光政策を起こしていただきたいです。一点集中型にしてやっていただきたいというのが、私が今回の審議会に出た理由で、地元の人達もかなり賛同していただいているということをお願いしています。

議長（市川委員）

ありがとうございました。他にございますか。

木村委員

よろしいですか。

議長（市川委員）

はい。どうぞ。

木村委員

私もバラ園があること自体は、何年か前から知っていました。ただ、それが八千代市にあるっていうことは、こちらに仕事で来るようになって初めて知りました。一般的には結構有名ですけど、京成バラ園イコール八千代っていうイメ

一ジを東京の方の人とかはあまり持っていないような気がするので、もうちょっと八千代にあるんだぞっていう、そういう発信をしてイメージ付け、宣伝することで相乗効果を。京成っていう方が頭にきてしまうので、八千代との連動性をもう少し高めた方がいいのではという感じを受けました。

議長（市川委員）

農業関係からいかがでしょうか。飯山委員あるいは斉藤委員、いかがでしょうか。よろしくをお願いします。

飯山委員

先程のココシルのアクセスで、農協の直売所とか収穫祭とかもありましたが、それもイベントか何かに入れてもらえれば、集客に繋がるのではないかと思います。

斉藤委員

新川千本桜の話ですが、河津桜は多分近くにあまりないのではないのかなと思います。やはり、早い時期の桜はアピールの一つだろうなど。多分、去年もそういう話をしましたよね。バラもいいとは思いますが、河津桜がせっかく綺麗に咲くようになったんですよね。そちらの方も見ながら、やっていただければと思います。

また、八千代の農産物はなしがアピールになるのかなと思いますので、なしに関するものがもうちょっと何かできればと思っています。以上です。

議長（市川委員）

ありがとうございました。少し出揃ったと思いますので、まとめたいと思います。

速水委員の方から、非常に際立った意見が出ましたけれども。後ほど話があると思いますが、今後の八千代市の観光振興計画にそういったものをどのように反映させていくのかということに対応していければいいのではないかと思います。

また、木村委員の方から出ました八千代市のブランディングですね。京成バラ園という素晴らしいキラークンテンツが、うまく八千代市というイメージと合っていないと。そういったことも、今後の観光振興計画の中で、少しアジャストしていければいいのではないかと思います。

先程、斉藤委員の方からありましたように、新川千本桜のソメイヨシノは同じ時期に咲きますので、そこはまだこれからではないかと思いますけれども、少な

くとも河津桜については、静岡の河津桜と同じ時期にここで咲いて、しかも早咲きということでお客さんも増えているということを考えれば、河津桜をもう少しアピールしていけばいいのかなと。その次に、この新川千本桜というところに繋がっていくのかなと思います。そういったところも、今後の観光振興計画等に反映させていただければ、と思っています。

他になれば事務局に戻したいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、八千代市の観光振興計画について、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局（齋藤）

議題(2)（仮称）振興計画策定について、説明をさせていただきます。

まず、資料6「（仮称）観光振興計画 策定の概要」をご覧ください。昨年の懇談会でもご意見を頂いておりますが、現在観光推進室では、本市の観光を今後どういった方向性を持って進めばいいのか、ビジョンを定め、効果的に施策を進められるよう、計画の策定について検討を行っております。

「策定の趣旨」は、1に記載のとおり、本市の目指すべき姿を定めるために策定するものです。2の「計画の位置付け」は、市の総合計画の観光部門として、具体的な施策を定める行動計画となります。3の「計画期間」は、市の次期総合計画及び次期総合戦略に沿って進められるよう、令和3年度からの5か年を予定しています。4の「策定スケジュール」は、後ほど説明いたします。この計画を策定するための「策定体制」は、5に記載のとおり、懇談会で意見を伺いながら、事務局で素案を策定する形となります。また、懇談会の下部組織として、市内の観光に関わる事業所や団体、市の若手職員を集め、ワークショップを開催し、幅広く意見を募ることを予定しております。

この計画策定の事前準備として、本市の有する観光資源の魅力を洗い出すために、観光振興計画策定に係る観光資源の基礎調査を進めております。資料7は、その観光資源調査の一覧になります。今年の10月から来年3月までの調査の報告については、来年度の懇談会でご報告する予定です。また、来年度も4月から9月までの資源調査を行う予定のため、委員の皆様からもおすすりめなどがございましたら、ご意見をいただきたいと思ひます。

この計画策定を定めていく日程案が、資料8の「（仮称）観光振興計画策定スケジュール・案」になります。こちらの表は、懇談会と事務局の今後の大まかな事務の流れをまとめてあります。上の段の懇談会としては、来年5月に1回目を開催し、観光資源調査の結果報告や現状と課題の整理を行っていきたくと思ひます。その後、11月頃までに2回会議を開き、素案を作成していきまひす。下の段が、事務局の大まかな流れです。目安としては、再来年の1月にパブリックコメントを実施し、幅広く市民の方から意見を伺ひ、3月中に冊子作成まひす

ることを予定しております。日程は目安ですので、1か月程前後する可能性があります。また、予算に影響されることもありますことを申し添えます。

事務局（神代室長）

今の説明について、私の方から少し補足をさせていただきます。

前回、平成30年度の観光振興懇談会において、こういった計画策定に向けての人材登用ということで、外部の方から任期付き職員を雇用した上で、その方と一緒に色々な資源調査等を進めていこうという計画がありますということをご説明いたしました。その後募集を行ったのですが、残念ながらこういった計画策定に向けてやっていただけるまでの人材の雇用には至りませんでした。

今年度4月からスタートしようとしていた部分につきましては、若干この部分が遅れている状況でございます。それを今後どのようにしていこうかと考えたところ、今の会長であります市川先生の方と相談させていただいた結果、市川先生の方に観光資源調査、計画策定に向けての準備段階を含めたものをお仕事として委託するような形をとり、現在一緒に進めている状況でございます。補足として、ご説明申し上げます。

議題(2)の説明は、以上です。ご意見等いただければと思います。よろしく願いいたします。

議長（市川委員）

はい。ありがとうございました。

議題(2)について説明がありました。様々な観点からご意見を頂戴したいと思います。太田委員いかがでしょうか。

太田委員

是非、計画通りにやっていただきたい。

速水委員が言っておりましたけれど、バラもそうですし、桜もそうですが、八千代市は色々なことを個々ではやっているんですね。それが広く、広まらない。例えば、私は源右衛門祭というのを16、17年やっておりますし、杉山委員は八千代新川千本桜まつりをやっております。新川については非常に長い間関わってきております。だから、先程の桜はもういいっていう話はちょっと聞き捨てならないなと思いました。

桜については、やっぱり新川は八千代の大変な資源だと私は思っています。もう二十何年間掃除をしながら、県議さん等に遊歩道をもっと広くしてくれ等色々お願いをしてきました。今台風の影響で、桜が200本ぐらい倒れておりますので、来年は私共も関わっていき、桜を満開にしたいという思いがあります。

バラなどと同じような思いが私どもにもありますので、是非そういうものも含めた計画で、実行に移していただきたいなと思っております。

議長（市川委員）

ありがとうございます。鈴木委員いかがでしょうか。

鈴木委員

はい。今色々なお話が出ましたけれども、やはり何か核となるものがやっぱり必要なのかなと思います。

私はこちらに勤めて27年ぐらい経つのですけれど、違う所に住んでおります。やっぱり八千代っていったら何というの、他に聞いてもなかなか結びつかない。バラや桜など色々な資源があると思いますので、その辺はある程度絞った形で街をPRすることによって、例えば、商工業の皆さんにおいても、それを使った食材とか、そういったものができたりして、色々なブランドの品ができると思いますので、あんまりバラバラですとなかなかいいものがないと思います。その辺はある程度絞り、この八千代ふるさと親子マップにバーンと出てくるような形であれば、また市民の感じ方も違ってくると思いますので、その辺をうまく進めていければと思っております。以上でございます。

議長（市川委員）

はい。ありがとうございます。杉山委員いかがでしょうか。

杉山委員

私共は、一般社団法人の八千代市観光賑わいセンターという、民間から八千代市の観光事業について情報収集したり、情報発信をしたりといったことを行いたいと思い、団体として3年ちょっと活動しております。なかなか思うように会員が集まらないということもあり、来年の4月1日から観光協会に名称変更をさせていただいて、そして多くの市内業者さん含め会員を募って、民間からの観光発信事業をしていこうと思っております。

観光振興計画の中に民間の観光協会の位置付けも入れていただいて、行政がなかなかやりづらいこと等があれば、民間として我々がフットワークよく連携をして、一緒にやっていければいいと思っております。計画の中に、是非入れて頂ければ幸いですと思っております。

議長（市川委員）

ありがとうございます。瀧上委員、旅行業の観点から何かございますでしょ

うか。

瀧上委員

はい。まず、これから目指すべき方向性、あるべき姿というのを策定されると思います。そこが肝になると考えております。このあるべき姿が明確になれば、次はどこをターゲットにしていくのか、市内、市外、インバウンド、男性、女性。そういったところをきちっとセグメントしていくということが、非常に重要であると感じています。その上で、この観光資材についてもどこに、誰に、どのタイミングで、どんな手法でアピールしていくのか、こういったことをこれから具体的に考えられれば、より良いアピールができるのではないかと考えております。以上でございます。

議長（市川委員）

ありがとうございました。その他にございますか。

浜野委員

よろしいでしょうか。

議長（市川委員）

はい、どうぞ。

浜野委員

私は市民団体のボランティアセンターの運営委員をやっているとして、地元で誰がこの街をつくるんだとよく話しています。街づくりということですね。例えば、環境の問題にしても、観光にしても、市に任せている。一番重要なのは、住んでいる市民が意思を持ってそこに参加していくということ、その土俵作りが一番必要なのではないかと。誰が見てもそれはいいかと。自分もそこに参加してみたいかと。千本桜もそうでしょうし、なぜ現在ここに来ているかっていう。会長さんとも何回かお話しして、我々の運動へご意見をいただいています。一方では行政の批判をしたりするんですけど、行政と市民が一体になるような街づくりをしていく。それが観光資源になると思うんです。ですから、住んでみたい街八千代だとか、あるいは、住んでいる人は住み続けてみたい街八千代だとか。そういうふうに、行政と市民が常に一体となるような取り組みをしていただきたいと思っております。お互いに批判者であったり、できない理由をぶつけるのではなく。それが一番今ボランティアをやる中で、重要だと思っております。

議長（市川委員）

はい。ありがとうございました。少し取りまとめたいと思います。

速水委員

よろしいでしょうか。

議長（市川委員）

はい、どうぞ。

速水委員

今までの活動の経歴を見ますと、やはり観光資源の発掘というのが毎年のテーマとして上がっておりますが、観光資源といっても目玉となるものが八千代市にあるわけではなくて、一般の近隣市と差はないと思います。そんな中から、何かを見つけ出して、磨き上げて目玉にしていこうという戦略だと思うのですが。それはそれで結構だと思いますが、ただ観光資源を発掘するだけじゃなくて、戦略ですよ。これから5年間何をやっていくのかと。

一つは、他から来ていただくには、私達も出かけるというか。なぜこんなことを思ったかという、新川ってちょっと調べてみると江戸時代から歴史があって、やっとな新川を作ったんですね。その辺の神社に行くと必ず月山や出羽三山に行った記念碑とかが置いてありまして、何でここら辺の人が行くのかと思って調べました。江戸幕府から言われて庄内藩が来て、他の藩も来たんですけど、一生懸命新川を掘らされるんですね。結局江戸時代に新川はできなかったんですけど、いろんな人達の血と汗があって、利根川が溢れてこの辺が水浸しになって新川を作ればと。その時に、源右衛門さんが一生懸命努力されている。源右衛門さんの歴史を掘れば掘るほど面白く為になるんですけども、そういったことを一般の方はほとんど知らないと思う。小学校や中学校でそういうことを教えているのかどうかわかりませんが。

今までの方は、八千代の方が出羽の山形県に行っているのですが、山形の方達がこちらに来ているかというのと来ていない。色々お世話になった江戸時代はありがとうございました。来て下さいってそういった呼びかけです。理由はなんでもいいんです。同じ人が付く都市だから来てみませんかとか。そういう八千代市以外から来ていただけるような環境を作って、来ていただけるような活動もやっていくことも必要なのではないかと。ただ観光資源を発掘して来てね来てねって言うのではなくて、私達から出かけて行って、お返しというかなんていうんですかね。じゃあおまえの所に行ってみるかというアクションも、戦略の一つにあってもいいのかなという気が致しました。

議長（市川委員）

ありがとうございました。他にございますか。はい、木村委員どうぞ。

木村委員

イメージアップが非常に重要だと、今日感じたところなのですけれども。ただ、観光資源というのは限られていて、新しく増やすことはなかなか難しいですよ。今あるものをどうするかということで。そんな中で、やはり順位づけとかピックアップが非常に重要だと思うんですね。例えば、誰もが知っているものはいくつかあるとすれば、京成バラ園さんなんかはポピュラーなものだと思うんですけれど。その活用ということで、例えば、最近ライトアップは全国的に非常に人気がありますよね。冬になると夜、バラ園さんはライトアップをされていないですよ。

丸山委員

当社の入園者数は現在年間15万人ぐらいで、多少はありますけれども、ほぼ増減はないです。そこを何とか20万人まで、プラス5万人を目標に何ができるかということで。春は渋滞で迷惑をおかけしていますし、ライトアップというよりは夜間ですね。夜間営業を何とかならないかと。

夜間営業をするためには、何が必要なのか。ライトかなと。今、うちのバラ園はライトがないんですね。夜になったら、歩けないくらい真っ暗。そこでライトをつけて、ライトアップみたいな感じになるのですかね。夜間営業を考え、数年間の中で実行し、何とか20万人を目標にやっていきたいなと考えております。

木村委員

私が見てきた中では、足利フラワーパークさんがあんなに人が増えるなんて。私は20年程前から知っていましたが、はっきり言って花咲く時期も何なんだろうって。やっていけるのかなと思う程の所だったんです。今は逆に、この時期にわざわざこっちから車で行く人も多いですよね。

例えば、先行投資のお金の問題もあるので何ともいえませんが、ゆくゆくは京成バラ園で、冬はバラが咲くかわからないですけれども、冬でもライトアップで見られるとかね。何かそういうインパクトのあるものが一つ二つとでき始めると、相乗効果で八千代のイメージが定着していくのではと思います。

京成バラ園さんもいらっしゃるので、申し上げたところですが。他にはちょっと見当たらないので、せつかくある資源としては、これから非常に可能性があるのではないかなと思ったのが、京成バラ園さんです。

議長（市川委員）

ありがとうございました。

浜野委員

よろしいでしょうか。さっきの親子マップのバラ園さんの下にローズフェスタというのが載っているんですけども、今年の5月に2日間地元で行いました。1日だけ発電機でライトアップをやりました。15万かかりましたかね。ライト買ってきまして、150本のバラを照らしました。デッキが上にありますので、ここから見た景色が大変綺麗です。午後6時半から10時まで行いました。これをぜひ5月・6月にやりたいと、市の方にも交渉しているんですけども。非常に綺麗ですね。地元の人達も大変喜んでくれました。ただお金がかかりました。

議長（市川委員）

はい。いろんなご意見が出揃いましたので、少しまとめたと思います。

まず、瀧上委員の方からお話しのあった観光マーケティングですね。何を見せ、どこの人に、どのように来てもらうのか、という観光マーケティングの基礎的なところですね。そういったところを観光振興計画の土台にしていかないと最終的な方向性が定まらないだろうと思います。どこの誰にどのような目指すべき姿にするのかということ、まずしっかりと確認した上で進めていかなければいけないのではないかと思います。

そして、最も重要なのは、そういった中で地域ブランドをどうやって作っていくかという話ですね。京成バラ園さんの話が色々出ましたけれども、あるいは皆様の取り組みも拝聴させていただきましたけれども、そういった意味では、キラークンテンツをどうやって八千代市の新たな地域ブランドとして育てていくかということも、観光振興計画の中には盛り込まないといけないのかなと思っています。

観光協会の杉山委員がお話しをされましたように、今民間の力で頑張っているものを、是非とも観光協会という形にして。多々、観光協会、その上のDMOとかDMCとそこまで進化しておりますので。そういった点ではまだ観光協会ができていないという状況を踏まえて、観光協会というものをしっかりと作った中で、活動の中心に来ていただくということがベストではないかなと私は個人的に思います。

また、市民が参加するということとか、あるいは双方向の交流が必要なのではないかと思いますけれども、最終的に目指すのはやはりこの街に住んでよかったというシビックプライドの醸成ですね。市民が、私の街は非常に良い街だねと。

そういった中に、この観光があらゆるところで紐づいているというのが、我々が目指すべき観光の一つの方向性ではないかと思えます。そういった点においても、皆さんの意見を観光振興計画にうまく盛り込みながら、最終的にシビックプライドの醸成というところに帰結できればよろしいのではないかと思えます。

先程、神代さんの方から説明がありましたけれども、去年、観光振興計画を立てるべきではないか、それについてはしっかりと人材を育成するべきではないかということを書いていたら、私の方に振ってきまして、たまたま今お手伝いさせていただいております。これからは、先程のスケジュールにございましたように数回の懇談会を経て、皆様の意見を取り入れながら観光振興計画を立てていくとし、市が勝手にやっていくものではありません。あくまで市民の方々の代表である皆様のご意見も盛り込みながら、スケジュールを進めていくこととなりますので、皆様からの忌憚のないご意見を多々頂戴して、よりよい観光振興計画にできれば良いのではないかと考えています。

他にご意見がなければ、最後に一言ずつ八千代市の観光についてでも構いませんし、今ご自身が取り組まれていること、あるいは気付き、何でも結構でございます。多少手短かに1人ずつご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは副会長である太田委員の方からお願いします。

太田委員

私どもは街づくり市民の会というものを24年間やっており、来年25周年を迎えます。先程お話ししましたけれど、新川の掃除から始めた会でございます。速水委員がお話ししていただきましたけれども、染谷源右衛門さんについて非常に興味をもちまして、それで源右衛門祭というものを始めました。2メートルの大鍋で5,000食できるのです。それが今大分浸透してきております。

その矢先に、今年の台風の影響で、桜の木が200本近く倒れてしまった。桜の会の皆さんとお話しをしたところ、非常に今人手が足りない、予算がないということでした。それについて、来年は協力しながら、新川の桜を満開にする事業をしたいなと私は思っております。私の会を上げてやりたいと思っております。

議長（市川委員）

ありがとうございました。鈴木委員、お願いいたします。

鈴木委員

時々、私はJ:COMで船橋・八千代・習志野を取り上げた番組を見ていまして、前回は杉山委員のお店にも市長が行かれていたので、ちょっと見ていたんです。そういった中、私も気付かないような所が色々出ていて、その辺ももう一度確認

していきながら、何かに結びつけていければいいのかなと思います。

またテレビの話になってしまうのですが、先週モヤモヤさまぁーずという番組を見ていまして、たまたま船橋の話題だったんです。芸人の方とアナウンサーが、船橋は来たことあるけど、あんまり印象にないねっていうようなコメントをしていました。船橋でもあんまり印象がないんだと思いついて、そういった中で八千代って先程もお話ししましたが、どういった印象があるのかなと番組を見て思いました。

ですから、やっぱり何か八千代といえどというものが、何か一つ作れないかなというところですね。私も常々思っていますので、やっぱりそれを懇談会の中で、何か一つ、そういったものの方向性が見えていけばいいのかなと思いますので、私も微力ながらお手伝いさせていただければと思います。以上でございます。

議長（市川委員）

ありがとうございました。飯山委員、お願いいたします。

飯山委員

初めての参加ということで、まだ詳しいことはわかっていないんですけども、これから観光についてここで学んで、微力ながら協力できればと思っています。よろしくをお願いします。

議長（市川委員）

ありがとうございました。斉藤委員、お願いいたします。

斉藤委員

委員になって3年目になるのかと思います。常々うちの組合長が、八千代の観光資源は何だっていう話をすると、やっぱり新川だろうとずっと言っております。新川を起点にして何かをやれば、八千代のためになるだろうという話はよく言っておりますので、そちらの方もよろしくお願ひしたいと思ひます。

また、私は釣りが趣味で、八千代だとヘラブナが冬の時期に結構釣れます。昔は、新川で釣りの大会をやっていたと思うんですが、環境問題もありますし、かなりマナーの悪い釣り客もいるので何ともいえないんですけど、そういった何かを検討いただければと思います。以上でございます。

議長（市川委員）

ありがとうございました。瀧上委員、お願いいたします。

瀧上委員

街の魅力作りは、見る・食べる・楽しむだけでなく、地元の企業さんも一体となってやる必要があるということで、実は多くの自治体では地元の企業を知らないということが多々あります。八千代においても、魅力ある企業が間違いなくある。

先程歩いてきたら、ボルダリングの施設がありました。これを全体でどれぐらいの方が知っていらっしゃるのだろうと。ボルダリングといえばスポーツ。街を活性化するには、これから間違いなくスポーツも絡めていかないと振興はできない。例えば、八千代総合グラウンドの有効的な使い方ですね。あとは、先程木村先生がお話しされた他の近隣自治体との相乗効果を狙って、船橋日大前には船橋アリーナがあり、全国的にも知名度の高い船橋ジェットがある。こういったものを一緒に絡めて、相乗効果を狙っていくとより良い魅力が発信できるのではないかと考えております。以上でございます。

議長（市川委員）

ありがとうございました。杉山委員、お願いいたします。

杉山委員

是非観光協会にしていきたいというお話しをさせていただいたのですけれども、地元の企業が活性化するような仕組みを我々で作って、地元の企業が観光によって今までよりも売り上げが上がったとか、よくなった、新しいビジネスチャンスに繋がったというようなことで、八千代市の街づくりに貢献していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（市川委員）

ありがとうございました。丸山委員、お願いします。

丸山委員

初めて参加させていただきました。皆さんに何回も京成バラ園、京成バラ園とお声を出していただきまして、光栄に思っております。

私事なのですがけれども、私は入社28年で、八千代市民になっても28年。27年間はお卸を主に担当していましたので、八千代をほぼ考えず、全国に目を向けて仕事をしてきました。28年目にして初異動ということで、今年の6月に卸売から小売りの分野、ガーデンセンターとバラ園の担当になりました。そうするとですね、やはり地元の大切さを痛感致しました。ちょっとデータ的なお話しになるのですが、私が配属になる前の今年の春です。ローズフェアには、約9万1

千人来ていただきました。その中でアンケートを回答していただいたのが約5千2百人で、男性が3%、女性が70%。どこから来ましたかに対する答えは、関東が96%を占めています。その96%がどこから来たのかというと、千葉県が61%。千葉県のどこから来たのっていうと、千葉市、船橋市、八千代市という順番で、この3都市で47%。やはり地元でもっているなと痛感させていただきました。そして、ちょっと悲しかったんですけど、その5千2百人のアンケートの中で、今までの来園回数を聞いたんですね。そうしたら、41%の2千百人が初めてという回答でありました。初めてが40%もいるというところに、まだまだこれから、地域密着型で集客について考える余地があるのではないかと考えております。よろしく願いいたします。

議長（市川委員）

ありがとうございました。木村委員、お願いいたします。

木村委員

今日、初めて参加させていただきました、大変勉強になったと思います。実は、私が住んでいるのは埼玉県の浦和なんですね。そこと比較したりすることもあるのですが、この街を好きになって、少しでも役に立てていければと思います。

いろんなことを羅列するのは簡単なんですけれども、何か一つ二つの代表したこの街の何か。さっき鈴木委員もお話ししたように、そういった何か確固たるものを。焦っても仕方がないんですけども、そういうのを作り上げられたら、そこを元にしてまた次ということで、欲張り過ぎずに地に足を付けて一つずつ何か考えられたら、より良い方向に八千代という街が知名度も上がっていくのではないかなと思います。

浦和も私が住み始めた頃は何もなく、あまりイメージも湧かなかったんですね。だけど、ある一つのスポーツチームのお陰もあって、浦和はほとんど浦和レッズしか知らないぐらいだったのが、最近は色々な努力をしたと思うんですね。市としてもね。ですので、そういった成功例とかをやっぱり勉強していく必要があるかと思います。

桜も素晴らしいし、ちょっと200本残念ですけど。私は染井吉野桜の発祥の地であります東京の駒込というところで生まれ育ちまして、非常に小さい頃から桜に縁があるので、桜を育てていくことについては、陰ながら応援させていただきたいと思います。

議長（市川委員）

ありがとうございました。速水委員，お願いいたします。

速水委員

私も個人的には斉藤委員と同じように、八千代市で一番好きなのは新川で、新川から印旛沼にかけてというのは、縄文時代から古代人が住んでいたそうで、それなりにどこか住みやすいところがあって、今に至っているんだと思っております。

先程のマップの中に、色々なコースがあります。私も自転車で何ヶ所か試しに行ってみたくて。やると非常に面白いんですけど、実際に行くと途中で休憩所がなかったり、東屋がこの辺にあったらいいとか、飲み物が補給できる所があったらいいなど、実際にやってみると色々気が付くことがあります。

最近テレビで見たんですけど、印旛沼にカミツキガメっていると思うんです。ワニガメですかね。実はアメリカが原産地で、アメリカのミシシッピの上流にいるらしいんですが、今アメリカではカミツキガメが絶滅危惧種になっていますね。なぜ絶滅危惧種になっているかという、みんな美味しいから食べちゃうんですね。食べちゃって、アメリカでは絶滅危惧種ということは、あのカメって美味しいんだって初めて知りました。ある意味これはもう、かわまちづくりと。今、佐倉市と一緒にやっているそうなんですが。

実際に、ミシシッピの上流に行くと、実際どんな食べ方をしているのかを調べて、これを地元を持って帰って日本風にアレンジするっていうのも一つのアイデアかなと思います。うなぎだけじゃなくて、これからはカミツキガメも名物にすればいいのかなと、ちょっと思いついたりして。色々アイデアは沸いてくるんですが、よろしくお願いいたします。

議長（市川委員）

ありがとうございました。浜野委員，お願いいたします。

浜野委員

現在、緑が丘に住みまして36年目です。牧場の中にできた街で、いろんな方が住んでいます。現在74歳になりまして、あと何年元気でいられるかわからないんですが。いろんなきっかけがありまして、いろんな人が一つの方向に向かってよくなったっていうのは何かと思ひまして、一つは緑豊かな美しい街という環境じゃないかな。もう一つはですね、みんなが集まって、ふるさとを作りたい。ふるさとはないものですから、牧場の中でできた街なんで15,000人。みんなでお祭りやろうじゃないかと。この二つができれば、卒業かなと。

先程申し上げましたように、自分に何ができるとみんな考えて、誰かがつくる街じゃなくて、自分たちが頑張ればいい街になるんじゃないかって。そういうところではないかと思っています。行政と住んでいる人たちが一体になって作り上げ、良い街になれば人は来る。人が住み続けるっていうそういう街になるんじゃないか。それは、観光も人を呼ぶ一つだろうと思います。そういう思いで今皆さんとやっているつもりです。よろしくお願いします。

議長（市川委員）

ありがとうございました。

最後に、私の方から少しお話しをしたいと思います。それぞれの立場から、皆さんに貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございました。

私は縁がありまして、このように観光資源の調査に携わっております。皆さんいろんなご意見をお持ちでしょうけれども、今の時代は如何なるものも観光資源になる。如何なるものでも、人を呼ぶチャンスがあるということですね。

先程、カミツキガメの話が出ました。私も、それが絶滅危惧種とは全く存じ上げませんでした。日本で言えば、スッポンしかカメは食べないんですけども、それを逆手にとるとそういうことになっていく。つまり、ここにしかない。オンリーワンですよ。

あるいは、京成バラ園さんは今関東ではナンバーワンのバラの評価を受けていますけれども、やっぱりナンバーワンとか、オンリーワンとか、あるいは本物であるというようなことですね。そういったことを、もっともっと発掘できるんじゃないかなと思うんですね。そういった点では、どれをブラッシュアップして、今あるものをさらに磨いて輝かせるかということと、全く人が知らなかったものをもっともっとより深く、発掘しなければいけないんじゃないかなと思います。

八千代市に住んでいる方はそんなものかと思われるかもしれませんが、ここは第一空挺団のパラシュートが見れますね。こんな街は日本でここしかないですよ。でも、地元の人はあるものがって言われるんですね。そこに、先程木村委員も申し上げたように、よそ者の感覚として入っていくと、実はいろんなものが見えてくるということがあると思うんですね。

私も他所者ですから、他所者の感覚でこの街を見て、どういったものが今後この街にとって観光資源になるのかということ、ある意味では厳しい目で、ある意味でプロの目で、皆さんといろいろ作れば良いなと思っています。

先程、瀧上委員の方からは、スポーツツーリズムというのがあるっていうこともありました。ですから、観光資源はいろんなものがあるんですね。そういったものをしっかりと見つめながら、この八千代市の地域ブランドをどのように

していくかということ、皆さまと今後真剣に考えていきたいというふうに思います。

まだまだ観光地としては、後進地域だと思います。そういう点では、木村委員からありましたように、周りの街々とどんなふうに絡んでいくのか。広域連携ですね。先程、川ということで佐倉市と連携をするという話がありましたけれども、では、習志野市とはどうなんだ、船橋市とはどうなんだ、あるいは白井市とか。それぞれの観光コンテンツをうまく利用しながら、我々のプレゼンスを高めることもやはり不可欠ではないかという感じがいたします。そういった諸々のことを、皆様と今後とも取り入れながら、よりよい観光振興計画等々ができればと思いますので、何卒よろしく申し上げます。

それでは、議題の(3)その他について委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいですか。議題がなければ、事務局から何かご連絡事項がありますでしょうか。

事務局（神代室長）

はい。連絡事項は特にございませんが、本日は大変貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

八千代市のあるべき姿やどういったものを目指すのかという部分をきちんと定めなければいけないということですか、情報発信がまだまだ足りていないということ。我々も情報発信は大事だと思い、それなりにやってきましたが、まだまだ足りていないということは十分認識しております。今後もその部分については進めていきたいと思いますが、同時に、情報発信をすると人がある程度来ます。来た時にどういった受け入れをするのか、インフラ整備も同時に考えていかないと、お客さんが来ても、何これって言われてしまえば悪い評価になってしまうので、そうならないようにバランスをよく取らないといけないと、最近常に感じているところでございます。そちらについては、先生が言われた通り、計画の中にきちんと盛り込んで、どういった整備をしていくのかということも踏まえて進めていきたいと思います。

その整備を進める中で、他市、特に隣接している船橋市、佐倉市とは、観光資源としても連携しているところでございます。佐倉市は印旛沼で繋がっているところから、船の接続やサイクリングロード、そういった繋がりをもっと連携していきたいということで、前々から協議を進めているところでございます。そして、船橋市とは、船橋観光協会が主催したバスツアーを2017年の初めの頃から、毎年何本かツアーを組んでいただいております。桜、バラ、八福神、道の駅といったメニューを船橋市のメニューと組み合わせて、お客様もそれなりに来ていただいているというふうになっております。

それを今後進めていくためにも、インフラ整備がどうしても必要だとか、八千代市をどう売り込んでバスツアーをもっと増やしていこうとか、売り込んで行く部分を進めていかななくてはいけないと思っております。来年度のスケジュール案を示しましたけども、こういったことを皆さんと一緒にいろいろ考えて、計画策定に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

今後の観光に関する事業として、お知らせという意味ではありますが、来年も1月5日から市内の農園でイチゴ狩りが始まります。これもかなり人気で、農家さんから聞いた話では、人気があるものですから午前中で無くなってしまおうとか。これもインフラ整備の一つかもしれませんが、人気がある上に苦しい部分があります。また、商業施設とのコラボレーションで、2月14日にユアエルム八千代台店でダイヤモンド富士の鑑賞会を私どもの主催で行います。また、3月には、河津桜が見頃の時期を迎えます。こちらの桜については、他の桜が咲いていない時期になりますので、問い合わせをかなり多くいただくようになってきております。河津桜の時期には本当に問い合わせが多いんですけど、速水委員が言われた通り、他にもたくさん桜の名所がありまして、ソメイヨシノの時期になるとパタッと連絡が来なくなるんですね。どこがどういうふうに勝負して、皆さんが見ているのかということをお我々も実際に感じているところでございます。また、新川千本桜まつりが3月初め、その後はいちご&ミルクまつり、4月には源右衛門祭が行われますので、皆さんお時間がございましたらぜひ足を運んでいただければと思います。以上でございます。

議長（市川委員）

ありがとうございました。本日の議題は全て終了いたしました。これで令和元年度第1回八千代市観光振興懇談会を閉会させていただき、議長の任を解かせていただきたいと思います。

本日は積極的なご意見をいただきまして、円滑な議事運営にご協力いただき誠にありがとうございました。大変お疲れさまでした。

————— 閉 会 —————